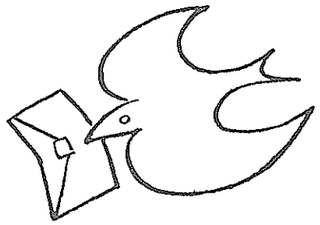
市政への提言……

《市政モニター通信から》



恐ろしい 複合汚染

今、大きな注目を浴びている朝日新聞の小説「複合汚染」を読んでいると、ほんとうに現在の日本はどうなるのだろうかと恐れをいだきます。衣食住すべてにわたり、特に食において有吉佐和子氏が全く驚くべきデーターと体験をもって書いておられるのには無条件で敬服せざるをえません。不思議なのは、厚生省も農林省も通産省もすべて無言で、一語の反論もないということはすべてを肯定しているということでしょうか。

実は私を含めて、この南国地区に、身体のほうぼうが大変痛い病気の人が多いということです。実は島本病院の整形外科の藤井先生があまりにもこちらの方にそういう病人が多いように思うので、一度水質検査をしたらとおっしゃっていました。

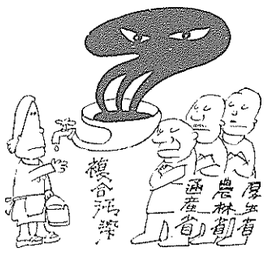
農薬は水源の井戸水へ地下水として浸透してゆくはずです。農薬の中で一番恐ろしいのは除草剤だそうです。有吉さんは農薬の毒は煮ても焼いても濾過してもなくならないと断言されました。早急にどうすることもできない現状でしょうけれど、毎日欠かす事のできない問題を第一に考えていただかねばと思います。

また、黒滝のし尿処理の問題は大変でしょう。昭和五十年以後は黒滝へすてられぬことになれば、各自が始末するなんてこと、全く不可能でしょう——役所も困ることばかりでしょうけれど、公園を作るより先の問題とも思ったりします。

パークタウンの構想もたいへんよいと思います。私にはよくわかりませんが、タウンを形成する家の構造は公団団地の様な形式でしょうか。もしそういう構造であれば、一階を全部老人ホームにしてあげることがよいと思います。老人は、やはり浮世（うきよ）の中に置いてあげるべきで老人を一般社会から切り離さないことです。二階以上を一般家庭の住居にし、若い人たち、子どもたちの中に置いてあげることです。そうすれば若い人たちも救われることもあるだろうし老人も楽しみを得られると思います。笹山の老人ホームのように、浮世から隔離されたくないという気持が私にはいつもあります。若い人の中に、子どもたちの中に、いきいきと生活している人たちの中に入れてほしいということです。老人ばかり集めておくということは、やはり淋しいことなのです。

人生の終着駅に無事到着できるのは老衰です。これは病気ではないので、家庭でみとれるならば、みとってあげるように呼びかけたい。病院へ入れられている老人たちの中でいかに家へ帰りたがっているか哀れです。しかし、また、インフレの波の中では、家中が働かねばならぬのも実情でしょう。

お母さん方の悩みや子どもの訴えを聞きますが、学校給食の問題で、育ちゆく子どもに害のないもの（防腐剤、人工甘味料、合成色素、発光剤、その他の添加物）をと祈ります。そういうもののないものを食べさせたいと思うのです。（N）（長文でしたが一部割愛させていただきました。）



空港問題の 経過報告を

市政をすすめる上で「空港拡張」

白木谷・八京地区は九月一日から岡豊支所で（戸籍・住民登録事務など）

問題は大変重要なことだと思います。国の仕事だから、県民のためだからなどという理由で大切な農地をとられ、また、騒音に悩まされ、犠牲者を出してまで拡張を行おうとする国や県に憤りを感じます。

ガソリン税がふえても、観光客が多くきても、住みにくい南国市ではあまりに情ないことです。別個に折衝しているなどと聞きますが、地主が売らなければ拡張はできないと言っても、半ば強制的に話し合いをすすめる場合がないとも言えないのでできるだけ広報でも空港問題をたびたびとりあげてどんな小さなことでもその後の経過を知らせてほしいと思います。

また、直接用地や公共施設、住宅などへの騒音公害の比較的うすい地区でもこのことについてどんなに考えているか抽出でもよいから聞いてみたら、と思います。市民一人ひとりに理解してもらうためにも。（A）

し尿処理について 高知市の方法を参考に

し尿処理について困っている家庭が多い。私もその一人だ。

業者に汲み取りを頼んでから取ってくれるまでに、二週間も三週間もかかる。しかもその間に「早くお願いします」「困っているから早くとってください」と二回も三回も平身低頭で電話連絡してやっとのことである。時によると、肥えがいっぱいになって蓋をつきあげ、うじ虫のわいた糞尿を庭か畑に埋めるしか仕末のしようがないこともある。業者も多忙のために予約通り取れないこともあろうかとは思うが、実に困っている。

こんな方法はどうだろうか。

(1)し尿を一括処理してほしい家庭を調査する。

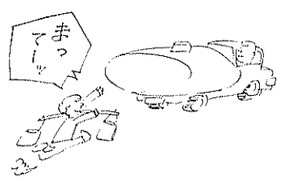
(2)家族数に応じてほぼ何日目にとったらよいかわかるので、くみ取り日をきめて家庭に連絡しておく。その予定日の前後には必ずとる。

(3)家族数のほぼ同じ家庭のくみ取り料金は段階をつけて同じくする。

(4)地区割、日時などについては業者と綿密に打ち合わせて協力をもとめる。

これは高知で実施している方法である。過日、高知市の親戚を訪れたとき、し尿処理の困っていることを話すと「そんなに困っているかね。高知市は何の心配も苦労もない。具合よくとってくれる」と言ってくれたのが右の通りだ。こうしておけば無駄な労力と気がねする時間が省かれて住民によろこばれるだろう。

この他にもよい方法があろうかと思われるので高知市の方法を他山の石として検討され、できるだけ早く実施してほしい。（I）



計画的な 収集体制を

私の家に限らず、近所の人々やたくさんの声を耳にいたしますのでお願い致します。

私どもは、だいたい二、三日余りは余裕をもって業者の方に電話いたします。けれどもその時のご返事では、すぐにでも来てくださるように申しますが、二日たっても三日たっても来てくれません。また電話をする、二、三日待つ、を二回も三回もくり返さなくてはなりません。あげくのはてには、〝前を通っている所をつかまえて言ってくれ〟との返事でした。いつ通るかもわからないものをいつまでも待つわけにはいきませんし、別の業者の方が通りかかっても頼んだ方が来て下さっては気の毒だと思ってやり過ぎ仕末です。台風の後なんかですと〝まあ、こんな時だから侵水した所から先に行ってるのだろう〟と察しもしますが、昔だんの時ならどうしてこんなに遅いのだろうとつい不満をいいたくなります。

忙しい人たちも〝何日の夕方に行きます〟と言われれば、その時は家にいて待っています。何日も何日も待ちぼうけさせられたのでは文句の一つや二つも言いたくなるでしょう。

何とかもう少しスムーズに出来ないものでしょうか。例えば、不燃物収集の時の様に、だいたいこの地区は月の何週目ぐらいに行くとか（この場合だと、少々早いなと思っても、それぞれ考えて取ってもらうようにすると思います）また、一週間位前までに、どこか一ヵ所の窓口に申込みをしておいて、そこの人が毎日毎日の割当をするとか（この方法は業者と市役所の間でどのような取り決めをされているか私は知りませんので無理かも知れませんが）いずれにしても何らかの方法を考えていただきたいと思います。（H）

未組織労働者の 福祉対策

市内には数多くの専業、兼業、期節の労務者がおり、各種の仕事に就労していますが、わけても建設工事に従事している労務者のほとんどは福祉対策といえば失業保険と日雇健康保険に加入しているくらいのもので同じ会社で何年働いても厚生年金の制度もなく、また中小企業、退職金制度のあることも知らないのが実情です。組合組織もなくただ黙々と、生きるために働くのが精いっぱいのこの労働者のために、せめて老後に少しでも多くの年金が貰え、退職時にわずかでも退職金が貰えるという楽しみをもった職場をつくりたいと思います。

その対策として、(1)市の発注する建設工事を行う業者だけでも、常用雇傭の従業員には厚生年金と退職金共済制度を適用するよう指導してもらい、またこうした制度のあることを広報にとりあげ、関係者の中広い組織の盛り上げをたすけると共に市の行政の中に労政係（仮称）を置き、事業主、労働者が気軽に相談に行ける窓口をもうけ、正しい労使のあり方なども指導してください。（Y）